

新年のご挨拶

新年にあたって“れんぷく”が取り組むこと

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、みやぎ連携復興センターの各種事業に対しまして、関係者の皆様からの多大なご支援ご協力に感謝を申し上げます。

昨年は法人として独立して2年目となり、組織の事業体制も事業開発・地域創生・地域復興の3つのチームに分かれ各事業展開を図ってまいりました。

事業開発チームは、復興と創生の両方を見据えた新たな事業の発掘と実践をめざした事業として、被災者支援コーディネート事業等を中心に組んできました。地域創生チームは、豊かに暮らせる地域づくりを推進するための事業として、復興支援活動推進業

務や人材育成事業等を中心に組んで来ました。地域復興チームは、地域型住民自治組織の形成を推進するための事業として、宮城県地域コミュニティ再生支援事業等を中心に組んで来ました。

この間においても、日本国内では4月の熊本地震や8月の台風10号による災害などが全国各地で起きており、みやぎ連携復興センターとしても東日本大震災からの復興に資する活動から、全国の多様な主体の方々と協働しながら課題解決に取り組むことが求められています。東日本大震災で学んだ教訓と成果を、災害の復興だけでなく地域再生から地域創生へ繋げていく取り

組みも必要になってきます。

本年もみやぎ連携復興センターは、役職員一丸となって取り組んでまいりますので、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。



一般社団法人みやぎ連携復興センター
代表理事 木村正樹



各地域から、100名を超えるたくさんの方にお集まりいただきました！

みやぎ地域復興ミーティング コミュニティ再生の姿とその担い手たち

「開催概要」

- 日 時：平成28年11月11日（金）
13:30～16:30
- 場 所：東松島市コミュニティセンター
- 参加者：117名（主催・事務局除く）
－自治会、まちづくり協議会、
行政職員、社会福祉協議会、
支援団体 等

「プログラム」

- 第1部 事例共有報告
- 登壇者
 - －丹澤千草氏（鹿折まちづくり協議会）
 - －飯塚正広氏（つなかりデザインセンター・あすと長町）
 - －河合節二氏（野田北ふるさとネット）
- 第2部 パネルディスカッション
- コーディネーター
 - －宮本愛氏（つなかりデザインセンター・あすと長町）
- パネリスト
 - －上記報告者3名
 - －本多史朗氏（公益財団法人トヨタ財団）
- 主な論点
 - －地域住民の声の拾い方・後押しの仕方は？
 - －地域活動における事務局機能の重要性は？
 - －集会所の管理・活用方法は？ 等

事業報告

コミュニティ再生の歩みを辿り、ヒントを探る 「みやぎ地域復興ミーティング」を開催しました

11月11日（金）東松島市コミュニティセンターで、宮城県主催事業「平成28年度みやぎ地域復興ミーティング」を開催しました。今年度はテーマを「コミュニティ再生の姿とその担い手たち」と設定し、模索をしながら各地で生み育てられてきた実践事例を共有し、パネルディスカッションで議論を深めました。

本会を通して、気仙沼市鹿折地区、仙台市あすと長町地区、神戸市長田区野田北部地区の3つの地域に共通するコミュニティ再生に取り組む際のポイントを捉えることができました。

趣味や特技を持つ住民さんに「3人集まればサークルですよ」と声をかけ、住民主体の活動を寄り添いながら後押しすること。小さな声をキャッチし、助成金や事務局ができるサポートを提示しながら、「やりましようよ」「できますよ」と力強く実行へ伴走すること。地道に小さなコミュニティを育てる取り組みの積み重ねが、コミュニティの再生へつながっていました。

また、その小さなコミュニティを支える事務局の役割として、会合などの

場を活用し情報を共有・関係者から合意を得ること、重要な集いや会議は一人ひとりへポストイングで案内することなど、活動を開き広く届けることの必要性などが確認されました。

参加者アンケートからは、活動への「モチベーションが上がった」「それぞれの地区でいろいろ工夫しながら活動しているのがよくわかった。町内会でもみんなに紹介しながら今後の活動に活かしていきたい」などの声が聞かれました。

コミュニティ再生という息の長い取り組みのために、お互いに活動の道筋や取り組みへのヒントを共有し合う場が必要とされており、当センターでも引き続きそうした場を生み出していきたいと思います。また、本会の講演録については、宮城県及び当センターのWebサイトにて公開を予定しております。コミュニティ再生の知恵が詰まっておりますので、ぜひご覧ください。

最後に、企画や広報にご協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。

【高橋若菜】

復興の様子を見ながら 仙台沿岸を走る

震災の月命日である12月11日(日)に仙台市若林区の沿岸部にある藤塚地区を会場に「復興祈願 第1回心をつなぐシーサイドマラソン大会」が、若林区の市民が発起人で地元FM局「ラジオ3」が事務局を務める実行委員会の主催で行われました。

名取川河口にも近い同地区は震災の津波被害で壊滅し、その映像をテレビで目にした方も多いでしょう。5年が過ぎた今は心の拠り所として昔からあった五柱神社が小さいながらも再建され、避難の丘が作られました。今ではほとんど人が立ち入らないこの地区ですが、その場所を走ることによって復興と地元への想いを再び呼び起こしてほしい、そんな願いが込められたマラソン大会でした。

マラソンは同地区の沿岸部の土盛り部分而走る5キロと10キロの特設コースで行われ、約四百人の市民が参加しました。参加者の中には同地区に住んでいた方もいて、走ることで少しでも藤塚地区が思い出されるといいなと語っていました。

本大会の実行委員会では、復興で変わっていく仙台東部沿岸部を見続けることのできるこのようなイベントを毎年開催していきたいと話していました。

【佐藤研一】



コースは貞山堀沿い 右に太平洋
左に仙台市の街並みを見ながら走りました

お知らせ①

みやぎボイス連絡協議会／編
みやぎボイスを出版しました

鹿島出版会より、みやぎボイス連絡協議会編「みやぎボイス」を出版しました。これまで宮城県内にて毎年開催してきた東日本大震災復興シンポジウム「みやぎボイス」のテーマ毎の総括、および今年のシンポジウム「これまでの復興とこれからの社会」の記録を、参加者(延べ333名)のご発言のまゝ、収録しています。

当センターも連絡会の一員として企画・運営に参画しております。
「その時人々は何を考え、何をしようと試みたのか」。これまでの宮城の復興の一端が、当事者や支援者のご発言から垣間見ることが出来ます。ぜひお手に取ってご覧ください。復興シンポジウム「みやぎボイス」は、今後とも継続開催する予定です。【石塚直樹】

お知らせ②

シンポジウム

復興の先を見据えた地域づくり
住民の主体性を考えた復興支援のあり方

日本NPOセンターでは、岩手、宮城のNPO3団体と共に、「住民が自らの役割を持つことにより、住民と地域にどんな変化が起こるのか」を3年間にわたって定点観測しました。

1月20日(金)仙台にてシンポジウムを開催し、現地NPOの視点からその実践と結果、そして教訓をお伝えします。
実践報告に加え、過去の災害における支援現場に立つてこられたゲストと共に、復興における「住民の主体性」が地域にもたらすパワーについて、パネルディスカッションを通して考えます。詳細は日本NPOセンター、または当センターのウェブサイトをよりご覧ください。

「開催概要」

日時：2017年1月20日(金) 13:30～16:30
会場：TKPガーデンシティ仙台 ホール21A (AER 21階)
対象：ご関心のある方はどなたでも 定員50名(先着)
申込：日本NPOセンターウェブサイトよりお申込み下さい

「プログラム」

- キーノートスピーチ「なぜ、復興に『住民主体』が必要なのか」
- 今田克司氏(日本NPOセンター)
- 活動報告「復興活動の現場で見ること、学んできたこと、伝えたいこと」
- 特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンター(釜石市)
- 特定非営利活動法人陸前たがだ八起プロジェクト(陸前高田市)
- 特定非営利活動法人ウィメンズアイ(南三陸町)
- パネルディスカッション「地域の課題解決と住民主体」
- パネリスト
- 実吉威氏(認定NPO法人市民活動センター神戸)
- 稲垣文彦氏(公益社団法人中越防災安全推進機構)
- 鹿野順一氏(特定非営利活動法人いわて連携復興センター)
- コーディネーター
- 松田曜子氏(長岡技術科学大学/震災がつなぐ全国ネットワーク)
- メッセージ - 田尻佳史氏(日本NPOセンター)
- 交流会 同会場内にて、参加者同士の交流時間を持ちます



「主要目次」

■333人による一人称の復興史 - みやぎボイス2013-2016 総括

混乱／復興に向けての体制の検証／復興を支えるお金の流れかた／意向調査と住民合意／復興計画・土地利用計画／住まいの問題／福祉の問題／地方都市における中心市街地の再生／沿岸部集落の再生／行政の在り方／普段の備え、事前復興、法整備の課題／専門家・支援の在り方、住民の在り方／フクシマ／今立っている場所／これからの地域の在り方、社会の在り方／復興とは何か？復興の在り方について／震災伝承・メディア

■みやぎボイス2016

- これまでの復興とこれからの社会

ラウンドテーブル(前半)：復興事業全般の課題の振り返り／中心市街地再生、地方創生の取り組み／半島部の生活・自治・なりわい・福祉の今と振り返り／報告
ラウンドテーブル(後半)：これからの社会の在り方、自治・生活・福祉／経済・なりわい・産業の再生／震災の伝承・風化・次の震災に向けての取り組み／報告

「購入方法」

全国の書店やamazonでご購入いただくことが出来ます。ご不明な点等ありましたら、当センター石塚までお問い合わせください。

＼2017年も、どうぞよろしくお願い申し上げます／

みやぎ連携復興センター 木村代表理事・事務局一同

